

SWEST2014 2014年
パフォーマンス・インプルーブメント・アソシエイツ
米島 博司

ソフトウェア技術者教育の 改善ワークショップ

目次と概要

目次

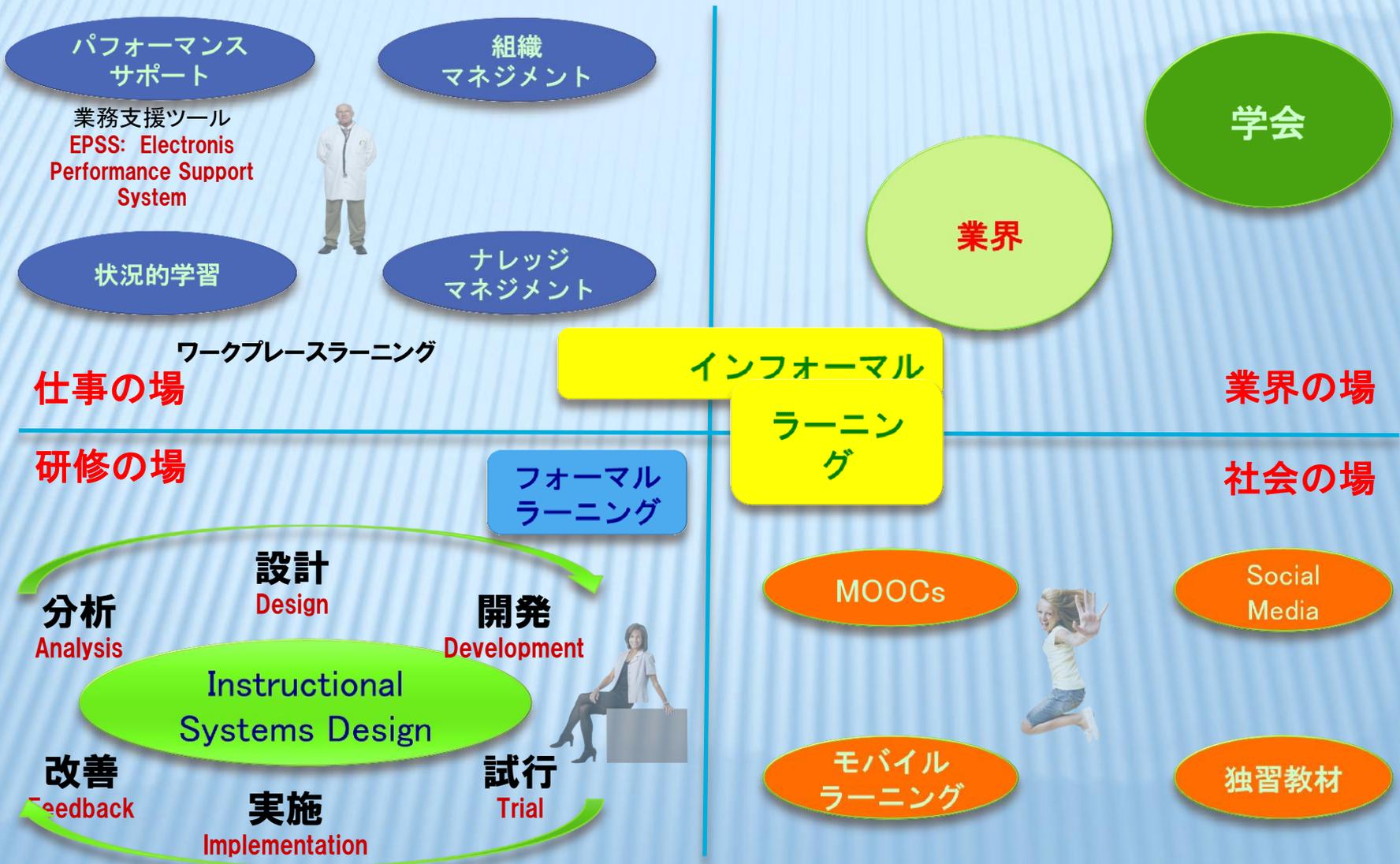
- × ソフトウェア技術者教育の場
- × 教育と職場の仕組みの役割
- × 教育の方法論
- × 現状分析
- × 問題・課題の抽出
- × 対策分析
- × 実行計画

概要

参加者の所属するソフトウェア開発現場におけるソフトウェア技術者育成、教育、研修の現状を持ち寄り、より効果的・効率的に技術者を育成するにはどのような方法が可能であるかを考察し、現実的で具体的な方法や活動計画を立案するためのワークショップとする。

現状課題分析の事前作業と教育改善手法の事前学習を行う。

ソフトウェア技術者教育の場



教育と仕組みの役割

教育

- ・ 公式な訓練
- ・ 集中的なスキル修得
- ・ 成果/費用を保証する必要あり
- ・ 実務とはオフライン
- ・ 職場実務への橋渡しが必要

職場の仕組み

- ・ 変化し続ける組織
- ・ 自ら学習し続ける組織（Learning Organization）
- ・ 実務環境で学習できる仕掛け
- ・ 学習する文化・風土

教育の方法論

教授システムデザイン Instructional Systems Design	期待される職務スキルを確実に修得させるためのデザイン方法論。	教育の場での教育・研修の方法論
経験主義 Experimental Learning	個人的経験と環境的経験の双方を通じて連続的に獲得される。 <ul style="list-style-type: none">• 経験の振り返り• 経験の概念化• 経験化された概念を使って問題解決	
状況的学習 Situating Learning	知識を他者とともにくみ上げていく社会的プロセス。職場環境に埋め込まれた学習の機会、仕組み。	職場・業界・社会における教育の方法論
社会的構成主義 Social Constructivism	グループは互いのために知識を構築し、グループ内で同じ意味を持つ成果物を共有する。	

現状分析

3つの視点から職場における技術者教育の現状を分析する

× 技術者自身に関して

- + 実務遂行能力
- + 仕事に対する熱意・態度
- + 向上のための学習量
- + 自己研鑽の意欲

× 職場・部門・会社に関して

- + 組織として学習、成長しようとする仕組み
- + 先輩から後輩へ、同僚同士での技術移転スキル共有のしくみ
- + 部門長の方針、熱意
- + 会社の方針、熱意

× 人材育成部門（あれば）

- + 方針、支援、制度など
- + 教育成果、技量評価の仕組み
- + 教育研修のツールやインフラ

問題：課題の抽出

現状分析から問題や課題を見つけるためのポイント

「人」の問題と思えたらさらに深くその原因は何かを吟味する（人の能力・スキルとそれ以外の処遇、人間関係、ツール、環境、職務ルールなどの原因の方が遥かに多い）



対策分析

現状の問題課題を見極める

現実的な理想のあるべき姿を描く

両者のギャップを埋めるための可能な対策を考える

実行計画

- × 長期（3年、2年、1年後）の計画
- × 中期（半年、3ヶ月、1ヶ月）の計画
- × 短期（3週間、2週間、1週間）以内の計画

★計画のポイント

- × 誰がやるか、当事者ごとの具体的なパフォーマンス（行動）で書く。
- × 成果物（アウトプット）を明確に定義する。

自己紹介

米島 博司 (パフォーマンス・インプルーブメント・アソシエイツ 代表)

富山県出身。千葉県在住。

日本電気通信システム(株)入社後、海外向け電子交換機の保守運用、ソフトウェアに関するお客様向けトレーニングの開発、インストラクターを担当。1990年代初頭、NECインターナショナルトレーニング在職中にニュージーランドテレコム(当時)のお客様からISD (Instructional Systems Design) の存在を知る。

以降米国CEP社とライセンス契約により、CRI(Criterion-Referenced Instruction)、IMD(Instructional Module Development)のワークショップの教材の日本語化、ワークショップの開催などにより、国内の企業(本田技研工業、JR東日本、日立、ユニシス、リコー、他)にISDを紹介、技術指導を行い、

数多くのインストラクショナル・システムズ・デザイナーを育成してきた。

2012年9月にNECネットエスアイ(株)退職後、フリーランスで教育システムの設計・開発アドバイザー、ISDの指導・ワークショップを行っている。

CRI/IMD Workshop認定講師

E-mail: yoneshima123@gmail.com